



門川町立草川小学校

校長室便り

令和6年度 第7号
令和6年10月7日

運動会がなくならないわけ・・・

今年の草川小の運動会は、第116回です。これまでの先輩方が、脈々と受け継がれてきた伝統に心から尊敬します。

少し難しい話になりますが、運動会は、学校で言う「体育」の時間ではありません。「特別活動」という領域の学習になります。

この「特別活動」の学習の目的の一つは、「子どもたちが集団の一員としての役割を自覚し、のために努力し、そして貢献できた喜びを味わわせる」ことがあります。運動会は、まさにそれを経験できる貴重な機会です。

そのため、私は、団の色を決める結団式において、子どもたちに「優勝を目指し、一人一人が自分の団のために、徒競走や団技で1点でも多く点数をとろうとがんばって欲しいこと」、「応援賞を目指し、団のみんなと声や動きを合わせて元気に応援して欲しい」ことを伝えました。同じことを運動会当日のあいさつでも話そうと思います。

話は変わりますが、今年の運動会、私にとっては、校長として初めての運動会です。今、子どもたちや先生方が練習に励む姿を見ながら、教頭までの時とは違うことを感じています。

それは、「だから、運動会は学校からなくならないんだな」という思いです。

そう思わせてもらえてる一番は、全校体育(全体練習)です。整列、礼、ラジオ体操、集団での移動、団に分かれての応援、まあ見事です。私はその見事さに驚いています。

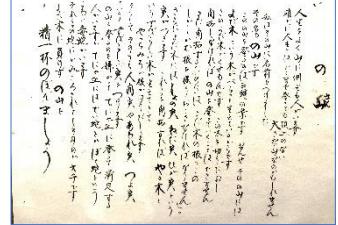
子どもたちの姿を見ながら、1年生から6年生まで全員で、緊張感をもって集団行動をしたり、歌って踊って応援をしたりする経験は、運動会でないとできない経験だと痛感します。

この経験は、時代が変わっても、きっと子どもたちの将来に必要な「協調性」や「自己肯定感」を育む機会になるのだと改めて思います。だから、運動会は、これまでも、これからもずっとなくならないのでしょうか。



おもしろい人生訓・・・

先日、宮崎の自宅に帰る途中、とあるスーパーのトイレを借りました。そのトイレにおもしろい人生訓の貼り紙があったのでご紹介します。



一の山 (のさん) -

人生をよく山に例える人がいます
確かに人生とは どこまで登っても
頂上のない大きな山なのかもしれません
私はその山に名前をつけました その名も の山 です
この山を登るのは至難の業です
なんせその山には よだ木 という木がべらっと生えているからです
この よだ木 がくせもんです この木を切りたおし開拓しなければ
の山を登っていくことはできません
また開拓するためには よだ木の根っここの しかしかむ根 を
掘りおこさなければなりません
さらによだ木には しょの実 ねた実 ひが実 という実がつきます
これらを開拓すれば やる木 というすばらしい木が生えてきて
やっちはみろか根 がはりだします そうしてそのうち
人間実 や あわれ実 つよ実 というすばらしい実をつけます
の山を登るのを嫌がって てにや丘 に登って満足する人がいますが
てにや丘には でい蛇 とか ぼく蛇 というこわい毒蛇がいます
それらの蛇に かみころされてしまうのがオチです
よだ木に負けず の山を 精一杯登りましょう

私の琴線には強く触れましたが、皆様はいかがでしょうか。私は、たくさんの中の毒蛇に食べられそうです。まだまだです。

【連載】小学校の先生「あるある」

- 台風が接近してくると、なぜか仕事の力が沸いてくる。
- 名刺交換の文化がないため、名刺を出されるとドキドキする。
- 学校を2日間不在にすると、学校が気になって不安になる。